

堺鉄砲鍛冶屋敷井上家資料調査研究



DATA

- 主な連携先・メンバー
堺市文化観光局文化財課／堺市博物館／鉄砲鍛冶屋敷井上関右衛門家／
関西大学なにわ大阪研究センター／関西大学名誉教授 黒田眞
- 活動地域
大阪府堺市／関西大学なにわ大阪研究センター
- 活動期間
2015年度～継続中
- 活動資金
受託研究

活動の目的

堺市鉄砲鍛冶屋敷井上関右衛門家が所蔵する古文書資料の調査・研究

連携にいたる経緯

大阪の文化遺産研究の実績がある関西大学なにわ大阪研究センターとの連携によって推進したいとする堺市文化観光局文化財課からの要請による。

活動内容

堺市北旅籠町西1丁に所在する井上関右衛門家は、江戸時代初期の建築で鉄砲の生産現場が残されている全国唯一の建物として、堺市指定有形文化財(建造物)に指定されている。この井上家に伝わる古文書を中心とする資料は、第二次世界大戦の戦火を免れ堺環濠都市区域に残る資料として大変価値が高いものである。

2015年度から共同調査を実施し、1万1700点の古文書資料について、目録作成・整理・分析・翻刻を行ってきた。

2018年1月21日には、鉄砲鍛冶屋敷井上関右衛門家調査報告会「蔵のとびらを開いてみれば」を開催し、一般市民にこれまでの調査成果を公開した。

2019年6月29日には、講演会「蔵のとびらを開いてみれば—堺鉄砲鍛冶屋敷井上関右衛門家を未来へ—」を関西大学東京センターで開催し、東京と近郊の方へ調査成果を公開した。



活動の成果

- 1 対象地域(堺市)での報告会の開催
- 2 資料の展示公開

今後の課題・目標

- 1 堺市内での展覧会の開催
- 2 資料の展示公開

教員紹介



■ 文学部 教授

黒田一充
Kazumitsu Kuroda

専門は日本民俗学、庶民信仰史。とくに日本各地の祭祀や民俗信仰を中心に、儀礼や組織を歴史的な視点から研究している。祭りや民俗行事の現地調査とともに、地元の記録や文書類を使った分析を試みている。